４年　国語科研究授業のまとめ（９月２５日）

１　単元名及び単元の目標

ごんぎつね（９／１１本時）

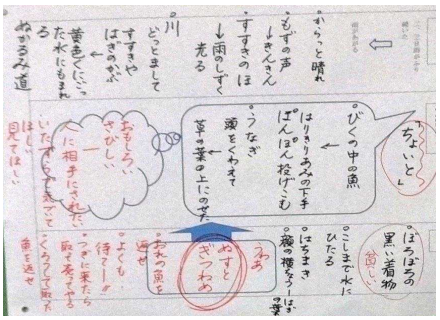
◎ 場面の移り変わりに気を付けて，人物の気持ちの変化をとらえる。

２　本研究授業の提案について

ごんを撃った兵十と，その時のごんの気持ちを読み取るために，次の二つについて提案を行った。

(1)子どもたちから出された初発の感想には「ごんは，兵十に撃たれてかわいそうだと思った。」というものが多かった。そこで，話合い活動を通して表現に着目させ，最後にごんと兵十は心を通わすことができた部分もあることに気付かせたいと考えた。話合いは「かわいそうだった」「かわいそうではなかった」のふたてに分かれてディベートの形式をとった。表現に即して様々な意見が出されるものと期待していたが，なかなか予想していたような議論にはならなかった。ディベート形式に不慣れであったことだけでなく，次の点に原因があったと思われる。①「かわいそうだったか」ということが話合いのテーマとして適さなかった。②兵十とごんの気持ちの変化を分けて考えさせなかったために，ごんの死を兵十の側から捉えさせることができなかった。　物語文の読み取りにおいて，ディベート形式の話合いが全く適さないとは思わないが，話合いのゴールとして何を目指すのかはっきりさせることと，一人一人の考えが深まるようなテーマの設定や発問の精選が必要であると感じた。

(2)クラス全体での読み取りの経過を常に振り返り，次の読みへとつなげやすくするために，板書として使った拡大ワークシートを掲示した（資料 1）。児童は，本時の話合いの時だけでなく，他の場面でも掲示を見て前時を振り返って考えており，効果的であった。



【資料 1・掲示したワークシートの一部】

３　本研究授業の授業技術課題について

前回に引き続き発問の精選に取り組んだ。考える視点は明確に示すことができたと思うが，ごんや兵十の気持ちに迫る上で十分ではなかった。発問の精選とは，文言だけの問題ではなく，それをどのような手だてで，どのような流れで考えさせるかということまでを包括したものであると改めて感じた。

４　今年度の研究を振り返って

今年度は，話合い活動を通して説明文と物語文の読み取りを行う研究授業に取り組んだ。その中で，思考を深める手だてとして，ワークシートの工夫や，前時までの学習を効率よく振り返るための学習履歴の掲示の工夫を行った。その結果児童は，ワークシートを見ながら自分の考えを整理したり，掲示物でこれまでの経過を確認したりしながら話合い活動を行っていた。単元のねらいや話し合わせたい内容に応じたワークシートの工夫が大切であると思った。一方，どのような形で，何をテーマに話し合わせるべきか，ということについては，十分吟味する必要がある。特に物語文における話合い活動については，その終末において何を目標とするのか，ということを教師側で明確にしておくことが大切である。また「ディベカッション」という手法についてもご指導いただいた。どのような場面で有効なのかということについて，今後研修していきたい。